

第1回 統合準備会

日時 令和2年5月27日 午後7時00分

場所 森町文化会館 小ホール

内容 2 教育長挨拶

- 3 全体会議 (1)統合準備会組織の確認
(2)統合準備スケジュールの確認
(3)中学校統合準備会での検討結果についての報告
(4)各分野における検討事項の確認
ア 教育分野
イ 通学分野
ウ PTA分野
エ 事務分野

4 連絡事項 次回統合準備会開催日 6月30日火曜日

司会:学校教育課長補佐 進行:森小学校教頭・三倉小学校教頭

発言要旨

発言者	内 容
学校教育課課長補佐	開会。 最初に教育長から挨拶をする。
教育長	5月25日に緊急事態宣言が解除された。これからは新しい生活様式を考えながら一人一人が行動に移すことが大切。健康のための命と、生きていくための命を天秤にはかけられないが、うまく付き合っていくようになる。 森中学校で統合後の生徒の様子を見ている。2月にPTAの皆様に小学校統合に向けての準備を説明し、統合準備会を実施していく。中学校の統合準備会の反省を生かしながら、小学校の統合準備会を進めていきたい。この一年が生徒、保護者、地域、また行政にとって有意義で意味のある一年になるように考えている。 4月30日に三倉小保護者からの要望に対する回答をした。また昨日、コロナウイルス感染拡大に伴って統合期日の猶予についての要望の文書が提出されたが、小学校統合については、町の重要な施策であると考えており、予定どおりの統合を進めていくことを町長とも確認した。 統合に向けて関係機関に協力を要請してきた。国からは天方小学校に教員1名が加配措置され、専科教員が増強された。また、兼務辞令により町全体の小学校中学校から三倉小・天方小へ応援が出来る体制にした。町でも3人の町費非常勤講師を任用して三倉小・天方小の学びの充実を図った。前向きな意見を集め、統合がこれからの森町にとって子供達にとって良かったと思えるように進めていきたい。
学校教育課課長補佐	3の全体会議に進む。ここからは森小学校教頭先生に進行をお願いする。
森小学校教頭	最初に自己紹介をする。
全員	各委員自己紹介
森小学校教頭	(2)統合準備スケジュールの確認について、学校教育課長から説明を求める。

発言者	内 容
学校教育課長	統合準備会のスケジュールについて資料の説明。 議会にて6月に学校設置条例の改正を上程及び補正予算を計上する予定、9月、12月に補正予算の計上を予定している。 中学校の統合準備会では駐輪場、学用品準備の補正があったが、小学校についても内容確認が必要で、10月頃を目標にとりまとめをしていく。 それぞれの分野に分け焦点を絞って検討を重ねていく。それぞれ分野で検討していく。教育分野、通学分野は分野での検討の後、全体で共有していく。式典分野については各学校ごとに検討していくため、今年度は準備会としては設置しない。
森小学校教頭	(2)スケジュールの確認について質疑を求める。
全委員	質疑なし。
森小学校教頭	(3)中学校統合準備会での検討結果についての報告を学校教育課長から説明を求める。
学校教育課長	別添資料の中学校統合準備会での検討結果について説明する。昨年度6回にわたって検討してきた結果、情報共有してきた内容の説明。学校経営の全体構想である学校グラウンドデザイン、教育課程を合同で作成している内容、学習進度、メンタルケア、進路説明会についても両校で調整して取り組んでいる内容について説明。 学用品について、町で支給する物、共通使用する物、部活動での必要物品などを分類して対応した。災害時の対応については、泉陽中学校に併せて森中学校の対応を変更するようになった。 予算については、12月補正予算に計上し、駐輪場増設やロッカー、下駄箱等の修繕を実施した。 通学分野について、バスの運行図を説明。秋葉線、三倉地区の下島から森林組合前までの大河内線、田能・大久保・中野・森林組合前までの夢街道線、天方地区の落合から森中入口までの吉川線の4つの路線を利用し、通学するように検討した。夢街道線についてはNPO法人やまゆり三倉から提案があり小中学生が乗車できるように新たに運行するようになった。 安全確保の対応では、最寄りのバス停を森中学校入口バス停として移設し、横断歩道を設置した。自転車通学の生徒についても天候や体調によりバス利用をすることを想定した通学補助を実施した。 PTA分野については組織、活動、財産処理、会計処理について検討した。 事務分野は資料のとおり、備品や図書の有効利用を図るため、長期休業中に物品移動、廃棄をしている。 式典閉校式については随時報告があった。
森小学校教頭	(3)中学統合準備会での検討結果について質疑を求める。
全委員	質疑なし。
森小学校教頭	(4)各分野における検討事項の確認 ア教育分野について森小学校長から説明を求める。
森小学校長	教育分野は6点の検討事項がある。 教育目標・グラウンドデザインについては、子供達の共通性、良い点、課題について3校で協議をしている。根本的に子供達は人と関わり合いを持ちながら学びを深めていくたくましさや表現力を伸ばしていきたいと考えている。今年1年かけて、それぞれの良さを伸ばし課題を克服していくグラウンドデザインを作成していく。 統合に向けてロードマップを作成した。それぞれ校長・教頭・事務レベルで話し合いをスタートしている。このようなロードマップを活用し、教育分野に何を求めていくのかを考えていく。 教育課程については、主に教務主任が年間計画等について検討していく。学校運営組織については、教頭が主にまとめ役になり新しい形を進めていく。校内生活については主任部長と検討していく。行事計画は三倉小・天方小で主な行事をまとめた。今年度は中止や延期の予定が多数ある。幼小中一貫教育については、今年度森中学校区になり今後進めていく。全体会については中止になった。9月に観音山での宿泊訓練を合同で予定している。宿泊訓練以外の学年は3小交流を行う。修学旅行については10月・11月に行く。保護者に対しても森小入学説明会を実施する。 新型コロナウイルス感染症の拡大の中、現在も教員は、オンラインの機能を使って三倉小・天方小・森小で会議をしている。今後も活用しながら、議論を深めていく。

発言者	内 容
社会教育課長	放課後の過ごし方について説明する。放課後の過ごし方の意向調査を行う予定となっている。児童にとって放課後をどのように安全に過ごすかについては大変重要である。統合後の放課後の過ごし方について三倉小・天方小の対象者へ意向調査を行い、来年に向けての対応の検討をしていく。現在の状況、統合後の放課後の過ごし方の希望、児童クラブの利用、放課後子供教室の利用、森小校舎内でバスの利用時間までの過ごす場所の利用についての設問を考えている。 放課後子供教室と放課後児童クラブの違いについて説明。 調査の結果により、検討案を準備会で報告する。
森小学校教頭	防災計画について、今年度は森小と三倉小・天方小の警報解除時の基準となる時間が違っている。統合後には通学区域が広がり、バス通学する児童もあるため、統合準備会で見直しをしていく。 学用品については体育館シューズは使用しないため上靴に修正する。本年度からそろえられる学用品は既にそろえている。今のもので使えるものは使い、統合によって買い換えが必要なものについては町から支給される条件の下で、さらに細かい点について検討していく。 既に検討が始まったもの、これから検討するものがあるが、以上教育分野の内容となる。
森小学校教頭	教育分野について質疑を求める。
全委員	質疑なし。
三倉小学校教頭	通学分野について学校教育課長補佐から説明を求める。
学校教育課課長補佐	1 通学時の安全確保については、遠州森町バス停から学校までの危険箇所等の把握と対応について検討する。 2 通学費の補助については、令和2年度の三倉・天方地区小中学生のバス利用の負担は、中学校統合に伴い、三倉・天方地区の中学生のバス利用にかかる費用を全額町で補助することになった。 中学校統合準備会での検討では、夢街道線の運行については、田能入口を始点として森林組合前を終点とするように検討した。その後、更に検討・調整を行い、黒田地区に利用希望がある場合は、令和2年度バス運行図のとおり中学生が森林組合前で降車したあと黒田地区の児童を三倉小まで送迎できるようにした。夢街道線を利用する小学生のバス通学に係る負担がなくなり、大河内線を利用する小学生のバス通学に係る負担も見直した。併せて小学生と中学生が同じバスを利用するにもかかわらず、通学の支援内容が異なる状況が生じていることから、補助要綱の改正に合わせ、三倉小及び天方小の児童がバスを利用して通学した場合の費用も町が全額補助することとした。 3 バス通学についてバス通学の検討経緯について通学の方法については、多くの意見や要望があり、検討してきた。特に、スクールバス運行については、三倉小の保護者から議会に対して陳情及び町長への要望が提出され、町として更に検討を重ねた。議会としては、町は地元の意見を踏まえて様々な検討をしてきたと認識しており、主要交通機関である秋葉バスの維持、町営バスの運行、町内全ての児童生徒の通学手段の公平性や町全体の財政などを考慮すると専用スクールバスの運行は難しいと判断され、この陳情は不採択となった。また、町長への要望に対しては、主要な公共交通の維持、町内すべての小中学生の平等性、財政的な面、今後の町政運営を考えたうえで、持続可能なスクールバスという形では用意することができないという結論に至ったとして、先日、町長から回答書を渡した。回答の中でも、既存の路線バス・町営バスを利用する中で、できる限り保護者の不安または児童生徒の不安・不便を解消するように、十分に安全が確保できる通学方法を統合準備会で提案したいとしてあったため、今回提案する。

発言者	内 容
学校教育課課長補佐	(1)令和2年度のバス運行と令和3年度のバス運行(案)について説明する。 既存のバス路線から自宅まで距離のある田能・大久保・中野地区の子供たちを送迎する夢街道線が新規に運行され、大河内線の朝の1便を森林組合前バス停から森中学校入口バス停まで延伸し、三倉地区の中学生を乗せて直行運行する。夢街道線については、森林組合前バス停で中学生が降車したあと、黒田地区の児童を三倉小まで送れるようになった。 令和3年度のバス運行については、大河内線の朝の1便を森林組合前バス停から森中学校入口バス停・遠州森町バス停までを児童生徒専用として直行運行する。夢街道線の朝1便についても、田能・大久保・中野地区を回り、森林組合前バス停・黒田バス停で小中学生を乗せて森中学校入口バス停・遠州森町バス停まで直行運行する。また、天方地区については、秋葉線及び吉川線を利用して通学する。これにより、登校については、乗り継ぎなしで学校付近のバス停まで通学できることになる。 下校時のバス運行については、中学校統合準備の際に中学校だけでなく小学校の先生とも協議をした結果、大河内線の直行便を用意して便数が半分になるよりも、乗り継ぎがあっても便数を確保した方が良いという結論となった。三倉地区については、森林組合前バス停まで秋葉線を利用し、大河内線または夢街道線へ乗り換えが必要だが、およそ1時間に1本のバスが確保できるようになっている。 (2)既存の交通体系を生かした通学方法の検討について 教育課程と既存バスの時刻を確認し、待ち時間の過ごし方を検討する。令和2年度の大河内線は朝の1便が森林組合前から森中学校入口バス停・遠州森町バス停まで児童生徒専用として直行するが、下校時は秋葉線を利用して森林組合前バス停で大河内線または夢街道線に乗り換える。天方地区の児童は、吉川線または秋葉線を利用して通学する。令和2年度の森小学校の下校時刻とそれに対するバスの待ち時間を示した表では、あくまで主な下校時刻となっている。バス停への移動時間は余裕をもって10分と考え、実質的な待ち時間を記してある。この中で30分を超える待ち時間となる日課は、金曜日課5時間授業の日が約50分の待ち時間が発生する。また、下から2段目の給食後下校の日が1年生は年間30日、2年生以上が年間15日程度ある。その際、約75分の待ち時間が発生することになる。これらについて、検討する。 (3)各路線の改善策については通学の状況等を考慮し、運行方法を検討する。 秋葉線は民間バス会社による運行で、東海道本線との接続を考慮して時刻表が設定されているため、町で変更することはできない。また、町営バスについては、秋葉線との接続を考慮のうえ、担当課において中学校の下校時刻との調整を細かいレベルまで行っており、時刻表の変更は難しい。 バスの乗降場所については、今後示す案について検討する。
三倉小学校教頭	現在三倉地区では4月から夢街道線が走り、子供たちや保護者とありがたいと話をしている。今年度の補助を来年度も続けていく、小学生が通学するため来年度は直行便を出すように提案している。意見や質疑を求める。
三倉小学校PTA	路線図で、中学生は森中学校入口までバスが運行しているが、森小についても学校まで運行できないのか。
三倉小学校教頭	森中の生徒は、「森中学校入口」バス停で降りて、学校まで歩く。小学生も「遠州森町」バス停から400m程度歩くようになる。
三倉小学校PTA	遠州森町バス停から森小学校まで余裕を持って10分とあるが、実際に子供の足で確かめているのか。歩いて確認しているのか。
森小学校校長	大人の足で3分。子供の足4分から5分位。学校の教室まで3階を想定すると3分位かかり、余裕を持って10分である。実際に歩いて学校へ行っている。向天方、仲横町の子供達は遠州森町バス停を通して通学している。
三倉小学校教頭	現在の森小の子供達も同じ場所を通学している。同じように歩いて通学するようになる。 待ち時間等を意識しながら来年の教育課程を組んでいくようになる。
全委員	質疑なし。

発言者	内 容
森小学校教頭	PTA分野について説明。規約については役員の人数や活動内容については少し違いがあるが、内容としては同じような内容である。今後細かいところについてすり合わせをして1つにまとめていく予定。PTA組織は人数や地区役員の配分について早急に検討していく。中学では副会長を1名、地区役員2名を三倉天方地区から選出するように決めている。 森小では会長副会長を7月に選考をしている。地区ごとの人数を早めに決定をし、6月に決定ができれば、7月に予定どおり会長副会長を選考していく。準備会と別に集まって検討し、決定事項については準備会で報告していく。 活動内容については3校で実施しているもの、2校で実施しているもの、1校で実施しているものがあるため、検討をしていく。特に資源回収については今年度困っている。今後のやり方について検討していく。
三倉小学校教頭	PTA分野は別で検討していくため、今後結果の報告となる。PTA分野について質疑を求める。
全委員	質疑なし。
天方小学校長	事務分野について説明。内容は、備品の整理・活用・移動について、備品の移動に関する予算についてとなる。備品の整理については肅々と進めて行くこととなる。 最初に、大前提として跡地利用についての考え方を企画財政課から説明を求める。
企画財政課長	跡地利用の検討について取りまとめ窓口が企画財政課となる。跡地の有効利用については、様々な見知から総合的に考えていかないといけない。泉陽中、三倉小、天方小の3つ施設を同時に検討のテーブルに乗せていきたい。具体的な進め方は、庁内で関係課のヒアリングを行い、内容を取りまとめ、地域の皆様より幅広く意見要望を聞く機会を設けていきたい。どのように意見を聞くかは、アンケートなどが選択肢の一つとなる。意見をまとめ、地元町内会長や代表者を委員として跡地活用検討委員会を実施し、それぞれの跡地の方向性を考えていく。現時点では6月議会を目処に着手していくと説明しているが、再編に伴う課題解決を最優先事項として考えていく。再編に伴う課題を優先的に取り組みつつ、跡地利用についても着手していきたいと考えている。 文科省で廃校活用実態調査があり、廃校から活用が決定されるまでの期間は平均3年超程度時間がかかっている。決定後、実際の運用までには手続き等でさらに時間がかかるものとする。息の長い取り組みとなるが、地域のシンボルでもあるので、跡地を中心に地域の活性化に少しでも早く寄与できるようスピード感に配慮しつつ進めていく。
天方小学校長	事例を示してもらった中で、イメージを持つことができた。備品整理が終わらない中で跡地利用についての決定はないと考えられる。まずは備品整理を進めていくが、備品整理については学校教育課が担当する。備品整理の方向性について学校教育課長補佐より説明を求める。
学校教育課課長補佐	備品整理の方向性としては、エアコン等の施設については、原則として移設しない。備品等で使用可能なものは、森小学校等、町内の学校の教育環境を充実させるために、有効利用する。また、使用可能ではあるものの、利用の希望がない備品については、各小学校に保管する。以上のとおり備品整理を進めるようになる。
天方小学校長	備品の整備の方向はエアコン等設備はそのままにする。使えるものは有効利用していく。置いておくものは全て廃棄をしてしまうのではなく、後ほど利用ができるものもあるため、そのまま置いておくものもある。
三倉小学校教頭	事務分野について事務職員で検討をし進めていくようになる。質疑を求める。
全委員	質疑なし。
森小学校教頭	PTA分野の委員は終了後打合せをする。
学校教育課課長補佐	次回の統合準備会について 6月30日火曜日文化会館小ホールで開催する。出席をお願いする。 以上をもって終了とする。(午後8時30分)